

「暮らしのカタチ」を創っていく時間すべてに関わるようになり

「プロデュース」という言葉は本来「生産する」「創造する」という意味です。

ただ元々子供の頃から「業界にしか興味がなく、実際にその業界から社会人生活をスタートした自分にとってこの言葉はあの業界内の「プロデューサー」というイメージしかなく、それは「すべてに関わる総責任者」の意味となります。「分業制」が当たり前になった今の社会、住宅市場はその最たる組織形態の中で成り立っています。「不動産」「設計」「建築」という大きな分業の中に元請・下請の関係があります。お客様から見ればすべて「暮らし」に関わるひとつなぎのことなのに、実際には点と点で止まっていて「線」になっていません。当社はそれを「当たり前」とし

たこの市場に反して、「暮らしのカタチ」に関わることをすべてをわずか3人でまともお客様の窓口となつていきます。今、何かしら「暮らしのカタチ」を変えようとしている方が望むこと――

それは「満足すること」

求めること

それは「わかりやすいこと」

喜ぶこと

それは「夢がカタチになること」

安心すること

それは「すべてに応えてあげられること」
そして何より、その時間が「楽しいこと」

――私たちはそう考えています。

そんな想いをカタチにしたのがこの会社であり、「おいしいおうち」というチームです。

「HOUSE」ではなく「HOME」を創る

「暮らし」という言葉には、そこに流れている確かな「時間」を感じます。「家」はそこに人が住まなければ、ただの「箱」です。そこに住まう人の時間が流れ、家族が育まれ、物語が紡がれていってこそ「家」としての意味が生まれると私たちは思っています。だから私たちはただ単に「家」というモノを創るのではなく、そこに住まう人とともに、「暮らしのカタチ」を創ってきたいのです。「家」という言葉の英語表記には「HOUSE」と「HOME」があります。だけ「My Home」の言



葉を持つ意味には大きな違いがあります。簡単に言えば、そこに「住まう方の想い」が重なっているかないか、という違いです。

「HOUSE」は高度経済成長という旗印のもと、住まう人の顔も見えぬままただ建物として作ってきた家の事を表現するときに使われる言葉です。一方、「HOME」にはそこに人の想いが重なります。広い意味では「安心できる場所」「家族との触れ合いがある場所」という意味まで含んでいます。

だから「家」という構造物に限らず「家庭(My Home)」とか「ふるさと(Home town)」といった表現にも使われるんです。

「HOUSE」ではなく「HOME」を創る会社

でありたい。「モノ」より「コト」を大切にしたい。この想いを私たちは強く持っています。

おいしい食事を楽しむように、家づくりの時間を楽しんでほしいから

皆さんが「幸せ」を感じる時ってどんな時ですか？ そんな時間のひとつに、おいしいものを食べた瞬間がありませんか？ 「おいしいおうち」ってそんな「幸せ」を感じる瞬間を家創りの時間の中にも創りたいって思ってた名付けた施工チームの名称です。このチームの中では「元請」「下請」という呼び名はありません。其々の役割が違うだけで、上も下もないというのが私たちの考えです。敢えて「元請」と言えるのはお客様だけです。そのお客様の想いをカタチに変えていく其々の専門スタッフがいます。その全体をまとめていく役割が当社という、ただそれだけの事です。



当社の体制では他の企業のように「数」をこなすことは出来ません。ひとりひとりの出会いに対して、大切に丁寧に寄り添うことが私たちの存在意義だと考えているからです。私たちがお客様と一緒にすすめる「暮らしのカタチ」の創り方は「ニュウエスタイル」です。肉も魚も煮物もパンも種類も色鮮やかなサラダもテーブルには揃っています。おいしい食事を楽しむように、家創りの時間を楽しみながら、あなた好みの「暮らしのカタチ」を一緒に創りましょう。

株式会社創喜 代表取締役 山田昇平



株式会社創喜 代表取締役 山田昇平